

K.I.T.虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

- ※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務室 [メールまたは電話])
 ※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名	科目コード	単位数	開講期	VOD閲覧
知的財産戦略特論	Z 149	1 単位	3 学期	学内のみ
Intellectual Property Strategy				
科目分野		課程領域		
知的財産マネジメント		イノベーションマネジメント共通科目		
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー		
丸島 儀一	-	メールアポイントにて随時		

関連している科目(履修推奨科目)

グローバルビジネス特論	知的財産戦略実務特論 2	知的財産契約特論1、2
技術標準化と経営戦略特論	ビジネス交渉演習	特許・商標訴訟特論

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

知的財産経営における事業を強くする知的財産(特に特許及びノウハウを中心として)戦略をテーマとする。
 1 実学を中心に授業を進めます。受講生が直接知財部門に携わっていなくても知財経営の知財戦略を理解できるように基本的な知識を学び、受講生の理解度に合わせた演習、討議を通じて実践に役立つ知識と応用能力が修得できるように講義を進めます。
 2 研究開発段階から事業実施段階に亘る知財戦略について講義するとともに事業部門、研究開発部門、知財部門が果たす役割について講義する。

到達(修得)目標

知財経営における事業競争力強化の知財活動を理解し実践に役立つ知財活動ができる人材になる

受講対象者

知財の基礎知識がある方で知財経営に資する知財活動に関心がある方。
 ビジネス経験があり自身の業務の立場から事業競争力を高める知財活動に意欲がある方が望ましい。

履修上の注意事項やアドバイス

- 授業中は知識の吸収のみでなく、絶えず自己の業務にあてはめて実践する立場で考えながら講義を受けることが望ましい。
- 毎回2コマの講義内容についての「まとめ」、感想、質問、意見、要望等を記載した簡単なレポート(中間レポート)を次回までに提出して頂く。次回の講義に反映できるよう余裕を持ってEmailで提出して頂きたい。質問は次回の授業で回答する。
- 演習、討議、レポート等に機密事項の開示は避けること。公言は差し控えるとしてもお互い機密保持の義務は負わないこととする。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー	○	Z2: 独創力		X2: 構想	○
Y3: グローバル法令・実務	○	Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力		X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	○	Z5: 変革推進力		X5: 変革	○
Y6: 標準化	○	Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力	○	X7: 評価・検証	○
		Z8: ネゴシエーション力	○	X8: リーガルマインド	○
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プラクティカム

イベント / ケース	教育技法	マテリアル / ツール
1 演習、討議を適時行う。 頻度、内容は受講者の数、レベルを考慮して行う。	提出課題に対するグループ検討、 グループ間討議	あらかじめ演習問題を提示する

評価の方法

(総合評価項目と割合)	評価の要点
中間レポート	30%
演習、討議の貢献度	20%
期末課題レポート	50%
合計	100%

毎回、事務室より出席簿を準備する。中間レポート評価及び演習や授業内での討議における貢献度を総合的に評価します。期末課題レポートは、授業全体の理解度を確認するものとなります。

テキスト・参考図書など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	「知的財産戦略～技術で事業を強くするために～」 丸島儀一 (ダイヤモンド社) (2011)	必要に応じ関連する資料を提示する。
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	1. 「キヤノン特許部隊」 丸島儀一 (光文社) 2. 「知財この人にきく」 丸島儀一 (発明協会) 3. 「知財立国への道」 内閣官房知的財産戦略推進事務局編 (ぎょうせい) 4. 「知的財産を語る」 レクシスネクシス・ジャパン (雄松堂出版) 5. 「知的財産の創造、保護及び活用に関する推進計画」 知的財産戦略本部	追加、変更の可能性あり。
参考 URL		
適宜紹介予定		

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産経営を意図する企業の知財戦略全般について概略を講義する。 事業、研究開発、知財の三位一体で事業を強くするための、事業の全サイクルと知財創造サイクルを連動させた知財活動と各部門の役割について学習する。 	テキスト第1章、参考書1, 2を事前に読むことを望む	丸島	180分
	<ul style="list-style-type: none"> 事業競争力を高める知財活動環境の構築(知的財産経営環境づくり、知財部門の環境づくり、知財人材の育成を含む)と 研究開発における知的財産戦略(事業目的に適った技術の創造、事業、知財戦略を意識した研究開発、研究者の知財マインの、知財センスの向上、産学連携を含む共同研究開発と秘密保持契約、成果の取り決め、研究開発と国際標準化活動の連動を含む)について学習する。 	テキスト第2章、第3章を事前に読むことを望む		
	イベント	新製品開発と知財戦略をとりあげたプロジェクトXを放映、感じたことを発表して頂く。		
3.4	<ul style="list-style-type: none"> 事業戦略に適った知的財産権の形成(知財力の強化活動、守りの権利の形成、攻めの権利の形成、相対的知財力強化活動、知財評価、グローバル知的財産戦略を含む)と 事業を強くする知的財産の活用(研究開発力強化の知財活動、販売力、生産力強化を強化する知財活動、知的財産を活用した共同事業、知財信託の活用を含む)について学習する。 	テキスト第4章、第5章を事前に読むことを望む	丸島	180分
	<ul style="list-style-type: none"> 技術の国際標準化戦略(企業競争力を高め持続させる標準化戦略、知財戦略と標準化戦略との関係を含む)と 開発型技術標準の意味するところと国際競争力強化(TBT協定)、標準化団体、団体のパテントポリシー、パテントプール、第三者権利の問題等について学習する。 	テキスト第6章を事前に読むことを望む		
	イベント			
5.6	<ul style="list-style-type: none"> 企業活動のグローバル展開上のアライアンス(提携)戦略(アライアンスと共同開発、秘密保持契約、知的財産のライセンス戦略、ライセンス契約、ノウハウライセンス等の重要なポイントを含む)について学習する。 	テキスト第7章を事前に読むことを望む	丸島	180分
	<ul style="list-style-type: none"> 企業活動のグローバル展開上のアライアンス戦略(ライセンス交渉、取引契約、新規なコア技術を生かし事業を成功させる為の新規事業分野のアライアンス戦略と事業提携契約等の重要なポイントを含む)と 契約の一括管理と運用の一貫性を保つことの重要性について学習する。 	テキスト第7章を事前に読むことを望む		
	イベント			
7.8	<ul style="list-style-type: none"> 紛争の予防と解決の活動(事業競争力を高め、持続する中、長期的、戦略的、予防的、臨戦的活動、交渉と契約力、妥協のない訴訟、リスクマネジメント、国際法務・情報ネットワーク、知財の先読みの機能を果たす情報ネットワークの構築と活用を含む)について学習する。 	テキスト第8章を事前に読むことを望む	丸島	180分
	第一回からの講義を演習により総まとめする。	あらかじめ提示する演習問題の事前検討を望む。		
	イベント	演習、討議を行う。提示する課題に対する知財面からの解決戦略についてグループで検討し、グループ間の討議を行う。		

- ※ 講義日程は、学事ポータル上の講義日程表をご参照ください。
- ※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。
- ※ 講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。